
モンスターハンターZERO

由太郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

モンスターハンターZERO

【Nコード】

N0367N

【作者名】

由太郎

【あらすじ】

亡きポル村の大英雄
リチャード・D・セバンの
血を受け継いだ

主人公

ランド・D・アレス

父の強さとは裏腹に、息子アレスはとても弱く誰にも頼りにはされ

ない人材であつた

これからさきアレスは

父を越えるか…

弱いまま生きて行くか…

最大の選択をアレスはどう答えるのか

ブローグ

「釣れないなあ…」

一人密林のキャンプ場で釣りをしている男
名前は

ランド・D・アレス

武器、防具はすべて下級

そのうえ頭が非常に悪く、皆から「アプトノス狩りのアレス」「狩られ役」などの称号までつけられたほど役に立たない
取り柄は釣りだけだ
ただし釣りが上手いのではなく

釣りが好きだけなのだ

「はあ…狩りなんかやってらんねえつつの。…ん？なんだありや！大物過ぎねえか！？」

なんと魚の中でも最も巨大で、そうそう見られるはずのない巨大魚

「カジキマグロ」

がえさに食いついたのだ

「でけえぞ！でけえぞ！Dの血が騒ぐぜええ」

「D」とゆうのは「ミラルート」とゆう、龍の中でもとてつもなく強く凶暴な龍。皆は「祖龍」と呼んでいる

その祖龍を倒したポ波尔村の大英雄

リチャード・D・セバン

の息子がアレスなのだ

しかしアレスにはセバンの面影すらなかった

ほんとに息子なのかと村からは疑惑までたつほど

しかしアレスは父を覚えていないのだ

父セバンはミラルーツと死闘の末、かろうじて生きてきたのだ…

村に帰ってきた瞬間村の民は絶句した。

なんとセバンは気絶しながら帰ってきたのだ

不可能だこんなこと…と皆は思った

しかしセバンはいくつもの不可能を可能にしてきた村の英雄
それを民はしっぺいながらも驚きを隠す事ができなかった

「セバンよ…祖龍を倒し、帰ってきたのであろう？目を覚ませ！亡
き妻が最後にお前に託した宝物「ランド・D・アレス」とゆう子供
はどうなるのじゃ！」

村長が気絶しているセバンを怒鳴った

セバンは気絶しながらつぶやき始めた

「すまぬアレス…あ…とは……そんな……ちょ……うに……まか……せ……る」

そう遺言をのこし息を引き取った

そして英雄が託した宝物「ランド・D・アレス」を17年村長が大事に育てあげた

しかしランド・D・アレスは…

いや、セバンの宝物は

カジキマグロに苦戦していた

そして二時間の死闘の末、カジキマグロを釣り上げた

「やつほおおい！どんなもんぢやい！これでランポス余裕かな」

低い

低すぎる

ここで彼の弱さが伺えたと思う

この発言で彼はランポス以下決定である

そして彼は嬉しさのあまり荷物を密林に忘れたまま、村に帰っていたのであった

第一話

「いいもの手に入れたよ村長」

なにやら村が騒がしい

「また始まったよ…アレスのくだらない見せ物。今度はアオキノコとマンドラゴラ間違えちゃったかな？」

「違いねえ！（笑）」

ハハハ

と村人の笑い声が響く

「なんぢやアレス。今度はどんなつまらんものを拾ってきたのじゃ？」

あきれた言葉で村長も返答した

「なんだよみんなして…びっくりして腰抜かすなよ村長」

そう言つてアレスは巨大な袋から巨大な一匹のカジキマグロを出した

「ジャジャーン」

「なっ！カジキマグロ…」

「嘘だろ…」

「釣り名人のキャンベラさんでも釣るのが難しいって言ってたぞ?」

つと村中の皆がびつたりとした表情を浮かべた

ランポスものくに倒せないアレスが巨大魚「カジキマグロ」を釣るなど奇跡を通りこした奇跡なのだ

「これはすごい…しかしアレス。そのカジキマグロをどうするつもりなのじゃ?」

「そりゃ「レイトウ本マグロ」を作るのさ」

皆がピタリと止まった

と言うより凍りついたと言う方が確実か
そして武器屋のサイズが一言

「お前レイトウ本マグロの素材確かめてものを行っているのか?」

「え?」

「全くぢゃ。一匹ごときで作れるほど「レイトウ本マグロ」は簡単ぢゃないぞ?」

「ぢゃあ何匹いるのさ」

「八匹」

ガン!!

アレスは地面に膝をついた

「ばっばかな…。あんな怪物を…あと…七匹も…」

皆があきれた顔を浮かべて解散していった

まるで皆の予想通りかのように

レイトウ本マグロは釣り名人「キャンベラ・ルーツ」しか持ち合わせていない高級の大剣なのだ

それをアプトノスしか倒せないアレスにどう手に入れろとゆうのか

無理極まりない話だった

「む？なんの騒ぎだ？」

一人の赤いヘッドギアをつけた青年が訪れた

「おお…教官どの。実はですな。アレスがレイトウ本マグロをつくるなどと夢を見ていましたな」

教官は絶望態勢のアレスに近寄った

「アレスよ…人間夢を見るのは悪くない…それぐらいわ許される事だ」

「教官どの？それはフォローしたつもりですか？」

「いかにも！優しい優しい教官がアレスにフォローしてあげたのだ！なんと優しいんでしょう！はははっこれからは神様仏様教官様と呼ぶがいい」

アレスは立ち上がり

「全くフォローになってねえ！むしろばかりにしてんぢやねえかあ！」

アレスは激怒した

そしてアレスは怒りのあまり教官を殴ろうと構えた

その時…

ボタン！

「…あれ？」

なんといつの間にかアレスは地面に仰向けで倒れていた

「な、なにが起きたんだ？今」

「ふん！だてに教官やってはないぞ？アレスくん」

なんと瞬きする間で殴りかかるアレスの間合いをとり、投げ飛ばしたのだ

それはまさに

「一瞬」

であつた

「すっスゲー」

「相手は選ばねばならん！わかつたかランド・D・アレスよ」

といってアレスの元を後にした

「アレスよ…相手が悪かつたのう…ん？アレス？」

アレスはピクリと動かない

ずっと空を見上げたままだ

「アレスどしたのじゃ？頭の具合でも…」

「スゲー！やっぱかつこいいよ教官！村長！俺決めたよ」

村長は目を点にして

「なにをじゃ？」

「教官の弟子になる！」

「！」

村長は驚きを隠せなかった

いままでアレスは戦いを嫌い。モンスターがいては逃げて。自分の弱さを理由に逃げていて

「戦いなんてどうでもいい。俺は釣りができればそれでいい」
なんて言っていた「あの」アレスが

まさか戦いの道を選ぶとは

「なぜじゃ？」

「俺…強くなりたいんだよ。教官みたいに強くなりたい！そうすればモンスターにも勝てるようになるだろうし、そしたらみんなからバカにされなくて済む。」

「アレスおぬし…」

「止めても無駄だから。俺は決めたよ」

「絶対に泣き言言わないか？」

「うん」

「教官の弟子採用試験は厳しいぞ？」

「うん！」

「死ぬかもしれないぞ？」

「わかってる！死を怖がってたら教官のように強くなれないからな」

「行ってこい！アレス！己の道に進むがよい」

そう村長に誓いを交わしたアレスはお辞儀して、村長の元を後にし

教官がいるお寺

（センユウジ）

「戦雄寺」

へと向かった

アレスの弱さを断ち切るために

アレスは第一歩を踏み出した

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0367n/>

モンスターハンターZERO

2010年10月13日05時23分発行